

# 令和7年第2回（6月）定例会一般質問会議録（中島章二）

令和7年6月17日(火) 午前10時から

## 「市道の災害復旧工事について」

○8番（中島章二） [登壇]

おはようございます。通告に基づき、市政に対する一般質問を行います。

小中学校の危機管理について、市道の災害復旧工事について、有害鳥獣被害防止対策について、3項目について伺います。

次に、2項目めの市道の災害復旧工事について質問します。

本市は、数年おきに豪雨災害に見舞われている災害の多い自治体となっています。昨年6月の大雨により、国道386号の三郎丸橋が被災し、通行止めが現在も続いています。

今年3月5日には、夜明大橋北交差点付近でのり面崩壊により通行止め、3月31日から片側交互通行となっています。通行止めの期間は、市道等の迂回路を利用することで影響を可能な限り少なくする対策をしていることは理解していますが、もし迂回路がなければ、どれほど困りが出るのか、過去の災害では県外まで出て出勤しなければならない地域があったことも記憶しています。

そこで、これまでの災害、令和5年、令和6年において被災した市道の復旧工事の状況について伺います。

次に、先ほど申し上げた三郎丸橋被災や令和2年の国道442号被災など、主要な幹線道路である国道や県道が通行止めになったときの迂回路としての市道整備の必要性について、どのように考えているのか伺います。

この項目の最後として、災害等の復旧工事対応体制について伺います。

本市の各振興局には技術職員が配属されていますが、振興局管内での災害復旧工事はどのように対応しているのか、復旧工事の設計や積算は本庁とどのように関わり進めているのか伺います。

○議長（三苫 誠） 土木建築部長。

○土木建築部長（大友得央） [登壇]

私からは、市道の災害復旧工事のうち、初めに市道の災害復旧工事の状況についてお答えします。

市では、現在令和5年及び令和6年の豪雨により被災しました市道及び河川の災害復旧に全力で取り組んでいるところでございます。市の災害復旧工事の進捗状況につきましては、道路と河川を合わせた工事発注もでございますので、全体の工事件数についてお答えいたします。

現在の進捗状況としましては、令和7年6月10日時点で、令和5年分が大分県への受託工事が1件と、市が発注した工事が43件の合計44件で、このうち市が発注した工事では39件の工事が完了しており、残りの4件が施工中で道路災害によるものは2件となっております。

同様に、6年分は市が発注した工事が12件で1件の工事が完了しており、残りの11件が施工

中で道路災害によるものは1件となっております。

なお、施工中の工事箇所につきましては、今年度中の完成を目指し工事を進めているところでございます。

次に、国道、県道が被災した場合の迂回路としての市道整備の必要性についてお答えします。

近年の大雨など大規模な災害の状況を考慮しますと、国県道などの幹線道路を補完する市道の道路整備の必要性は高まっているものと考えております。しかしながら、バイパス整備や市道拡幅などの改良工事には多くの費用と長い期間を要しますことから、早急な対応は難しいと考えております。

そのため、国道や県道などの幹線道路が被災した場合の迂回路としてのその役割が期待される市道につきましては、ダブルネットワークの必要性や孤立集落の解消を含めた地域における重要性などを考慮し、優先度を判定した上で整備を進めているところでございます。

同様に、迂回路としての役割が期待される市道が災害等で通行に支障が生じた場合には、地域の道路状況や緊急性などを考慮し、被災した箇所の優先度を判定した上で早期復旧に努めているところでございます。

最後に、災害復旧工事の対応と進め方についてお答えします。

振興局管内で災害のおそれがある降雨が発生した場合には、道路や河川に関する市民からの問合せや通報への対応及び道路や河川のパトロールなど、災害発生前の初期対応を主に振興局の技術職員に担ってもらっているところでございます。

その後、災害が発生した場合には、振興局から土木課へ被災状況の報告があり、土木課と協議した上で応急対策などを実施しております。

また、復旧工事などが必要となった場合には、振興局の技術職員と土木課の担当職員で被災現場の課題や問題点を共有し、復旧方針の協議を行った上で災害査定や工事の設計を進めているところでございます。

工事の設計や発注に際しましては、振興局に技術職員が少ないことから、民間の技術者による業務支援の活用や土木課が設計や発注業務の支援を行い、効率的な業務を進めているところでございます。

今後も、振興局と土木課が連携し早期の災害復旧に努めてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（三苦 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二）

市道の災害復旧工事について再質問させていただきます。

まず、市道整備に関連してですが、中津江村の市道田ノ口線は、令和2年7月豪雨で被災して通行止めとなってしまいました。1年半後に復旧工事が完成し、通行できるようになったんですけど、再度通行止めとなり、そして昨年6月6日、工事箇所の横が崩落し、現在また通行止めとなっております。

非常に通行できる期間はあったんですけど、結果的に長い期間、地元住民にとっての生活路線である市道が通行止めの状況にあるかと感じています。

確認の意味で、この市道田ノ口線の令和2年災からの被災状況の経過についてお伺いいたします。

○議長（三苫 誠） 土木建築部長。

○土木建築部長（大友得央） 市道田ノ口線の通行止めの経過につきましては、令和2年の災害による通行止めが令和2年7月から令和3年12月までの1年と6か月間、令和5年の災害によるものが令和5年7月から令和6年3月までの約9か月間、さらに令和6年の災害によるものが令和6年6月から現在までの約1年間通行止めとなっている状況でございます。

○議長（三苫 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二） 途中通行できる期間はあったんですけど、結果的にこの路線を生活道路として使っている住民の方にとっては、非常に困りが発生しているという部分をお聞きしているところでございます。

また、今回工事をしたすぐ横の部分が崩落したというような状況なんですけど、令和2年災の時点で災害防除対策、今回災害が発生していますけど、それを防ぐような対策の考え方はなかったのかお伺いいたします。

○議長（三苫 誠） 土木建築部長。

○土木建築部長（大友得央） 令和2年に被災しました災害復旧工事では、被災した直後の状況や被災した原因、さらには周辺状況の確認など、十分な事前調査に基づき設計を行い工事を実施しております。

令和6年の市道田ノ口線の被災につきましては、前回の被災箇所と隣接しておりますけども、令和5年からの度重なる豪雨による異常出水が原因であり、事前の災害防除等による予防は困難であったと考えているところでございます。

○議長（三苫 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二） 現場を見ると、工事を行ったすぐ下と言いましょか、下側が崩落しているというようなことで、その時点ですぐ横が崩落したということは、もうちょっと広い区間とか崩落の対策を行えば、今回の災害は起きなかったんじゃないかと思っているところでございますが、令和2年災の時点では、見受けられなかったということで答弁があったところでございます。

今後、今改良復旧という言葉も出てきていますが、こういった中で災害対応、復旧工事については、いろいろな予測を立てながら対策を図っていただきたいと思うところでございます。

この時点で国道442号の迂回路としても、この田ノ口線は必要な路線と考えています。長い期間経過しようとしています。今回の被災においても、もう1年以上経過しているところでございます。この線の早期開通についての取組について、先ほど年度内という答弁がありましたが、早急に行っていただきたいと思うんですが、こちらについてお伺いいたします。

また、併せてどこで被災するのか予測が難しい本市ですけど、他の市内全域の迂回路として必要とされる市道の早期復旧の必要性について伺います。

○議長（三苫 誠） 土木建築部長。

○土木建築部長（大友得央） 災害復旧におきましても、迂回路などを含め地域における緊急度や重要度を考慮し、優先度を設け早期復旧に努めているところでございます。

しかしながら、令和6年に被災しました市道田ノ口線の災害復旧工事の施工箇所は、急峻な地形に加えまして、もろい地盤であることが予想されましたことから、杭による地盤の補強が必要な特殊な工法での復旧となり、そのための地質調査や調査結果に基づく工法の選定などに時間を要し、長期間の通行止めとなっている状況でございます。

市道田ノ口線は、国道442号の迂回路となることは十分に理解しており、現在令和8年3月末の完成を目標に、工事内容について関係機関と協議を進めているところでございます。住民の皆様には大変御迷惑をおかけしておりますけれども、早期の通行が可能となるよう、仮設道路の可能性についても検討してまいりたいと考えておりますので、いましばらくの間御理解と御協力をお願いしたいと考えております。

また、市内全域におきましても、迂回路として必要な市道が被災した場合には、現場の条件等により時間を要する場合もございますが、地域の実情を考慮した上で早期の通行が可能となるように、片側交互通行や仮設道路の設置などによる一時開放も考えながら対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（三苫 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二） 今部長のほうから仮設道路等も考えながらということで、御対応を考えていただけるということで答弁がありました。

ちょっと市長にお伺いいたします。こちら田ノ口線ですね、途中通れるようになってはいますが、こういった長い期間通行ができなかったということ、今回災害が発生した後、また1年近くいろいろな事情があるかと思うんですけど、なかなか工事が始まらないなということを考えながら過ごしてきた地域の方がいらっしゃるということで、市長のほうでもこちらのほうの早期開通について、お考えがあればお聞かせいただきたいと思うんですが。

○議長（三苫 誠） 市長。

○市長（椋野美智子） 地域の方々には、本当に御不便をおかけしておりますし、いつ工事が始まるのだろう、いつ通れるようになるんだろうということで、御不安な点も多いかと思えます。

工事については、担当で一生懸命取り組んでいると思えますけれども、地域の方々に御不安を与えないように、十分地域の方々に御説明をするなり、そのあたりは留意をしてみたいと思います。

○議長（三苫 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二） ぜひ早期開通に向けて、また開通だけでなく、今後被災しないような復旧工事をお願いしたいと思っているところでございます。

また、最近では被災し、復旧工事を行っている間に次の災害に見舞われ、対応に追われる状況が続

いているように感じています。ほかの自治体でも同様に技術職員が少ない状況が続いている現在ですが、専門的知識や技術を必要とする土木技術者の方は、私は本庁に集約して、複数人体制での取組、また担当地域を中央で、本庁で集まった後、担当地域を職員ごとに割り当て、複数人で設計や積算等を行い対応を図るシステムのほうが、職員の中でも協議や相談やアドバイスなどができて、効率的になるのではないかと考えております。

初期対応について職員を配置しているということで登壇の答弁がありましたが、これからの土木技術者の状況等も鑑みて、こちらのシステムについても御検討いただければと思いますが、お考えがあればお伺いいたします。

○議長（三苫 誠） 土木建築部長。

○土木建築部長（大友得央） 土木技術者の効率的な配置ということでございますが、振興局では災害時におけるパトロールなどの初期対応に加え、日常の道路管理なども行っておりますので、地域の現状に精通している土木技術者の配置が必要と考えており、現時点では振興局の職員を本庁に集約するなどの対応は考えておりません。

今後も、技術的な必要な技術研修等を通じまして、職員の技術力の向上に努めるとともに、本庁と振興局の連携をより深め、効率的な事業実施に取り組んでまいりたいと考えております。

一方で、御指摘のように技術職員の確保に対しましては、災害時の対応に加えまして、今後老朽化が予想されます多くの橋梁やトンネルなどのインフラの維持管理や、若手技術者の育成など多くの課題がございますことから、これらの課題解決に向けて他市の先進地事例を調査するなど、配置を含めた技術職員の在り方について検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（三苫 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二） 技術職員の皆さんにとっても、住民にとってもスムーズな災害復旧等を行えるような形を今後も検討していただきながら、一番いい形をつくっていただければと思います。